

第 376 回 火の国会議 議事録 (令和 2 年 7 月豪雨 第 96 回)

日時：2021 年 8 月 3 日（火） 18:00～

場所：くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）事務局

【参加団体】

熊本県社協 県ボラセン	熊本県社協 県地域支え合いセン ター支援事務所	minori	熊本市役所
よか隊ネット熊本	生協くまもと	でんでん虫の会	バルビー
KVOAD			参加 14 人 online4 人 計 18 人



オンライン参加者：※参加順、敬称略
バルビー／日本赤十字看護大（渡辺）
ピースボート災害支援センター（山脇）
東京都立大（平木）
JPF（斎藤）

○熊本県の新型コロナウイルス感染症の状況（7/30 更新）

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/30/51409.html>

県リスクレベル：レベル 5 厳戒警報（感染状況は増加傾向が見られる）

国分科会ステージ 3

7/28～レベル 5 に引き上げ。

7 月 2 3 日から 2 9 日までの新規感染者は 306 人、病床使用率は 22.6%（速報値）

7 月 30 日に「熊本蔓延防止宣言」を発出し、県民への要請がされている。

そのうち、移動については、以下の要請。

- 全ての県外への不要不急の移動を控えてください。
- 県外にお住まいの御家族や御親戚、御友人に対して、ふるさとや家族のことを考えて、本県への旅行や帰省を控えていただくよう呼びかけをお願いします。

本日の報告数：110人

● 孤独・孤立化に対応するための勉強会

○ 趣旨説明

災害後に被災地においては、被災前からの様々な課題が浮き彫りになるが、被災を受けたことにより、その課題に拍車がかかり、支援のあり方も従来とは異なる場面に遭遇する。

熊本地震においては仮設住宅等の退去者等が、新たな地域でのコミュニティ形成に困難を極め、孤立感を感じているものの、コロナ禍の影響もあり交流会等の開催も自粛され、継続的な福祉支援に繋げることも困難になっている状況にある。

今回からの勉強会は被災者支援に携わった支援団体より、孤独・孤立化している被災者の事例を共有し、事例から学ぶとともに地域活動の取り組み方針検討の一助としたい。

○ 孤独・孤立に関して事例から学ぶ勉強会

◆ 熊本地震後の活動概要

《 minori 》

生活困窮者及びホームレス支援を地震前から行っていた。

ホームレスから家に入居した後に孤立化し、依存症、引きこもり、孤立死の問題が出てくることを認識していた。仲間が存在がなく、継続的見守りを主眼においた伴走型支援を行っていた。その手法が災害支援に活用できた。

活動としては、よか隊ネットを立ち上げ、車中泊関連の活動後、益城町の支え合いセンター事業を受託、みなし入居者の見守りを行った。

個別支援として、まず関係性をつくり長期的に見守る。家族や仲間の代わりに、本人と話し合いながら、寄り添い、支援を行う。ホームレス支援での方法が、災害支援でも機能した。

コロナ禍でコミュニティ支援が限られてきている状況で、再度訪問して現状把握が必要と感じている。3月末で支え合いセンター事業が終了した後も、電話番号などを把握した80名ほどと随時連絡を継続している。

《 でんでん虫の会 》

2010年に熊本支援の会で支援していた方が声をあげられずに亡くなったことを機に設立。ホームレスだった方がアパートに入居すると、壁が高い。近所に元ホームレスであったことを知られるのが怖い。毎週水曜日に行けば誰かに会える場としておしゃべり会を運営している。おしゃべり会を通じて、個別の支援につながることもある。

熊本地震の際に避難所を回ると、会員さんが積極的に動いていた。おしゃべり会以外にでんでん虫の家を持っていたことがある。みなし仮設に入居した方がそこを訪ねてこられた。

身内を頼れない方などが孤立する。特に高齢になると孤立しがち。

災害公営住宅に入居している方も、当時のことを思い出し、怖さが抜けないとのことで、電話で安否確認をしていた。

6000弱ほどの相談があった。

身寄りがいない方や家族と疎遠の方の身元引受の依頼が最も多い。当初はホームレスの方がアパートに入居するための保証人の依頼が多かったが、地震後は身元引受依頼が多くなっている。医療、福祉などの機関からの依頼がある。被災者同士がオンラインでつながることができるような試みも最近開始している。

◆孤立、孤独感を感じている方は、こころとからだの健康リスクが高いという調査結果が報告されている。実際に接している立場として、どのような健康リスクがあったか。

- ・調査項目として食欲、睡眠などの設問があると思うが、食欲や眠れないというのは、孤独感とつながっていると感じる。隠れた不安なども相談する機会がなく、先延ばしにしがち。早めに介入する関係性をつくる必要がある。
- ・背景として、障がいや隠れている方が多い（手帳はなくても）。孤立される経緯として、家庭内、社会の中で適用できず孤立し、ホームレスになった等がある。不安感、人を信じることができない。血圧、心臓、糖尿などの健康悪化に結果的につながっていると思う。

◆令和2年7月豪雨を含め、地域を離れ、仮住まい、恒久的に住むことになる人も多い。地域に溶け込めないことも孤独化の一つの要因だと思うが、地域に参加できない理由としては何かあるか。

- ・知り合いがおらず、入口がない。
- ・そもそも孤立しやすい特性を持っている方もおり、新しい環境ではますますつながりにくい。被災前から町内会等でも打ち解けにくい状況がある中で、災害により物理的につながりが完全に断たれる。職場も失い孤立につながる例もある。被災から年月が経つと、年齢も高くなりリスクが高まる。
- ・みなし入居者で、同じアパートに他のみなし入居者もいる方が、アルコール依存に陥っている人の相談を受けきれないとのことで相談があった。
- ・同じ市内に住む場所が変わり、仕事の相談。
- ・支援される側に立つ人は、これ以上迷惑をかけてはいけないと、我慢しがち。

◆孤立されている方は行政の支援、生活保護についてもご存じだろう。行政から支援をお願いされるパターンもあるだろうか。

- ・課題が行政担当課をまたがったりすると相談があるパターンはある。保護受給を待つ間の支援や、介護施設は出るが成年後見の対象にはならないため、親族替わりの連絡など。家がない、つながりががないという現象でとらえて受け入れるため、行政からひとつの相談先としてとらえられている可能性はある。

熊本市) アパートを借りるにも保証人が必要であり、NPO等の力はありがたいと感じている。半面、行政が頼りないとも思う。隙間の部分を埋めていきたいと考えている。

- ・障害、介護、成年後見の対象にならない、狭間におちいる人。
- ・権利擁護もいっぱいいっぱい何か月も待たなければならない場合もある。
- ・保護課の方も悩まれていることもある。生保受給後も民間が介入できることにより、自立支援に関わることができる。
- ・行政は窓口も手一杯、公平性を基にやらなければならないため、できないことは当然ある。民間ができる部分は連携してやっていく必要があると感じている。家族がわりの役割をするところがあるということを連携の中に組み込んでいき、支援できる体制ができれば。
- ・制度は充実しているが、そこにつなぐ役割が必要。
- ・家族だけでも抱えきれない場合もある。
- ・実際に8050問題は大きい。

◆社会資源（制度等）につなぐにあたっての課題。地域に溶け込めない理由。

- ・溶け込めない理由は、まず入口がない。
- ・特性がある方に対して地域も怖がってしまう。隠れている特性について地域リーダーに話し、一緒に考え、見守ることができるとよい。つながる方法を分かち合い、不安を軽減できるとよい。

- ・本人が訪問等を拒むことがあるが、裏返しの可能性も大。
- ・つながりための課題としては、自分のことを言ってもらえるまでの関係性づくりに時間をかける必要がある。それをできるかどうか。本人にも問題がある場合もあり、地域からのアプローチが困難。明日の食べ物が無い、救急搬送等、ぎりぎりのところでやっと「助けて」となることもある。そのようなことを想定しながら見守る。このような関係性づくりを地域の方々（民生委員さん等）に背負わせることができるのかも課題。
- ・地域に入っていけない理由として、自分のことを聞かれることが怖い、言いたくない。そのため地域サロン等に参加しづらい等。

◆社協との連携。民間活動の資金面、どのような連携で動いているのか

- ・社協も行政と同様に、社協では手が届かない場合などに連絡がある。つながった方はリスクの高い状況にある人であることが多い。社協と対立ではなく補完しあって動く必要がある。
- ・親戚の持っている物件をシェルターとして活用。企業の方から投資物件として持っていた部屋を提供いただいている等。

名前がついていない課題に対して、予算はないが、積極的に動こうとする人がネットワークとしてつながり動いている状況。

→自由度のある許容範囲の広いお金の出る仕組みが必要なのではないかと。

- ・社協さんとのつながりとして、社協窓口に行き、制度にのっかることができなかつた方の相談を社協から受ける形が多い。校区社協とのかかわりが昨年のはじめてであった。会長が身元引受や金銭管理を積極的にされているため、テーマが共通。お互いに連携する形を模索している。

→どのような効果をあげており、どのようなケースに対応しているかが広く伝わると、NPO 等の大切さが行政や社協にわかってもらえ、現状の制度では、うまく回っていくのではないかと。

県社協) 災害があつてはじめて minori の存在を知つた。

◆コロナ禍で孤立・孤独化した人が増加していると考えられる。社協への生活困窮の相談も非常に増えている。コロナの影響はどうか。

- ・昨年4月は、派遣切りにあつた若者からビッグイシューの販売をしたいという相談があつた。車中泊を繰り返しながら、日雇いの仕事に通っている方もいる。生活保護受給している方は他に行くところがなく、孤立が進む。家庭内で在宅ワーク等が増え、家庭内の状況が悪化し、引きこもりの人等が家を飛び出して県を越えて来る等、コロナ禍で不協和音が強化されている。

●熊本地震

○応急仮設住宅等の入居状況 (7/13 公表、6/30 現在)

建設型仮設住宅：58 戸 (165 人)

借上型仮設住宅：40 戸 (115 人)

公営住宅等：0 戸

計：98 戸 (280 人)

JPF:

2016 年 4 月から 2021 年 7 月の事業の振り返りのための事業として、8/1 から JPF の最終事業を開始。支援の取組に関して、かみ砕いてわかりやすい冊子を作成予定。

中間支援組織が中心となり支援調整をしている熊本の取組がよい見本になっているが、連携の軌跡について本を作成する。熊日出版と専門家と作業を行う。

●令和2年7月豪雨について

【被災地の状況】

○応急仮設住宅等の入居状況

7/31 現在（県すまい対策室：8/3 公表）

	建設型 応急住宅	賃貸型 応急住宅	公営住宅等	計
戸数	730	681	165	1,576
人数	1,746	1,534	304	3,584

※建設型応急住宅は7市町村24団地808戸を整備

○公費解体の進捗状況

6月末現在（7/2 公表）

申請件数：2,442件

発注件数：2,028件（発注率：83.0%、発注完了：19/23市町村）

完了件数：1,201件（完了率：49.2%、解体完了：15/23市町村）

市町村別の完了率（件数が多い市町村のみ抜粋）

八代市：36.1%

芦北町：50.3%

人吉市：46.5%

球磨村：48.0%

【災害（復興）ボランティアセンター開設状況】

八代市：8月お盆明けまでは活動休止。

人吉市：7/31（土）活動。活動人数21名。

8月22日まで活動休止。

球磨村：コロナリスクレベル5を受け、8/1～22まで活動停止。

※詳細は、熊本県ボランティアセンターHPをご参照ください。

○「被災地で活動する際の感染防止対策チェックリスト」

https://www.pref.kumamoto.jp/ki_ji_34550.html

○高速道路無料措置

→2021年10月末まで延長決定

ボラセンが継続している市町村は使用可能。対象範囲は、ボラセン対象範囲に限る。

活動団体用に情報共有会議でも印鑑を設置している。

社協が関係していない活動に関しては、KVOADにて押印可能。

▶7月1日から、証明書に関する変更あり

「災害ボランティア車両高速道路通行証明書発行システム」を用いた証明書取得に変更
<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/r1/0830/>

※ネット環境がない場合は、従来どおりの手続き。「従来」=2019年7月までの方法

【熊本県内団体の活動予定・活動状況】

ピースボート災害支援センター：

- ・人吉市・球磨村の被災公民館備品支援
今週は大きな動きなし。
大柿の公民館の清掃活動に毎週、九州看護大の学生が来ている。今後も住民との交流をされる。
- ・8/1に熊大学生が下原田第三仮設で支え合いセンターとともに表札づくりをされた。様子を見させていただいた。
- ・人吉デイサロン贈り物とメッセージの支援を震つなどの連携でおこなっている。

K) 大柿は大工さんが入っている？

7月頭から大工さんが入りリフォームが開始している。

よか隊ネット熊本：

- ・7/18 人吉市でのつながる広場
超高齢化で参加者が来れないというのが課題になった。
- ・8/8 八代市で地域支え合いセンター主催の「みんなでカフェ」が予定されている。
みなし入居者が対象。お茶出しで参加予定。
- ・8/1 坂本の復興商店街でのバーベキュー交流

生協くまもと：

- ・今週末予定していた山江村での交流会が延期となった。
- ・支援物資等が日生協から届く予定。支え合いセンターに活用いただきたい。

minori：

- ・在宅見守りを行っている。
- 全壊の家に住んでいるが包括等も入りかねていたケース。支え合いセンターを含め、複数の組織でケース会議を開催できることとなり、ようやく前に進みそう。
- ・球磨村仮設を自治会長とともにまわった。

県地域支え合いセンター支援事務所：

- ・連携会議は芦北町は中止するとのこと。

バルビー：

- ・宇城市社協からの依頼で、災害公営住宅内の交流支援調整中。
8/11, 8/18に社協とともに実施。→コロナで延期
- ・球磨村復興ボランティアセンター運営支援
継続中のニーズ3件（うち、保留中1件）

コロナリスクレベル5を受け、8/22まではボランティア活動休止。
急ぎニーズが入った場合は、村内ボランティアでの活動を調整することを考えている。

- ・球磨村地域支え合いセンター運営支援
地域、仮設への訪問等継続中。広報くまむらは全戸配布。関係機関連携会議。
支え合いセンターだより制作。
出張よけまんは、インフラ避難の対象地区から事前訪問をしている。
- ・各市町村支え合いセンターの住民ニーズ把握に基づき支援継続中。
- ・山江村仮設団地及び近隣住民の交流イベントを調整中。
8/7（土）開催予定（生協くまもと、なつかしか隊、県社協、県支援事務所など）
→コロナで延期（再び）。
- ・津奈木町地域支え合いセンターからの要請あり、9月の交流イベント調整中。
- ・動画報告 ▶ <https://www.youtube.com/c/officeBulby/featured>

KVOAD :

- ・生活家電備品支援→第1弾、第2弾実施中。8月から第3弾も並行して開始。
- ・エアコン、入浴設備支援 継続中
※事業期間延長→12月末までを予定（申請受付は11月末まで）
申込状況によっては、前倒しで終了の可能性もある。
- ・大手コンビニより、地域住民にコミュニティ形成も視野に入れた利用の取組みについて相談を受けた。今後提案していく予定。

○参加者等からシーズ・ニーズの情報：
<ニーズ>

<シーズ>

- ・PC、プリンタ等の貸し出し。
中間支援や支援団体向け。（IT DART・くまもとLRネット）

【情報共有】

○熊本県被災者生活再建支援金（2021/6/30 更新）申請期限など更新されている
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/27/51312.html>

○熊本県 すまいの再建5つの支援策
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/27/78930.html>

○熊本県 「被災者生活支援ガイドブック」2020年12月版
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/27/4722.html>

○熊本県 「住まいの再建ガイドブック」2021年3月版
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/27/51322.html>

○熊本県 「炊き出しチェック表」 食料提供の場合は提出必要
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/30/51395.html>

【助成金情報】

○ゆめ風基金（被災障害者支援）

<https://yumekazek.com/>

地元の障がい者施設への助成。障がい者を支援している団体にも助成可能。

○《熊本地震》熊本市復興支援ボランティア連携推進事業費助成金（二次募集）

https://www.city.kumamoto.jp/hpki/ji/pub/detail.aspx?c_id=5&type=top&id=35637

(8/11 締め切り)

【イベント等】

▶仮設住宅、地域等における催し

- ・毎週火曜日 つながるカフェ（仮設団地巡回）▷学園大社福災害学生ボランティア G
コロナ禍で中止？
- ・山江村住民交流会（8月7日）▷生協くまもと、バルビー等【延期】
- ・津奈木町住民交流会（9月11日調整）▷支援事務所・バルビー調整

【資料・相談窓口等】

○災害後のこころのケア

https://www.pref.kumamoto.jp/ki_ji_16193.html

熊本県精神保健福祉センター 電話相談など

○熊本県弁護士会 令和2年7月豪雨関連の相談窓口

https://kumaben.or.jp/soudan/gouu_soudan.php

○熊本県 浸水住宅の修理等に関する情報・無料相談窓口

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/115/51279.html>

○水害に係る多言語支援情報（自治体国際化協会）

<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/tagengo/meswater.html>

（やさしい日本語を含む10言語）

○ペット関連

わんにゃん緊急支援災害ネットワーク熊本（ペット、飼い主支援）

相談フォーム

<https://forms.gle/YeAxPqKjktB481VX6>

○写真洗浄

あらいぐま熊本

<https://araigumakumamoto.amebaownd.com/>

【新型コロナウイルス感染症関連 参考資料】

○コロナ影響下での災害対応についてのガイドライン等
コロナ影響下における災害対応に関するガイドライン・指針等の情報には
KVOAD の HP からアクセス可能。

<https://www.kvoad.com/2020/06/blog-post.html>

○JVOAD のガイドラインページ

<http://jvoad.jp/guideline/>

○熊本県「ボランティアの皆様へ」
(被災地で作業される場合の留意事項)

https://www.pref.kumamoto.jp/ki_ji_34207.html

○熊本県「被災地で活動する際の感染防止対策チェックリスト」

https://www.pref.kumamoto.jp/ki_ji_34550.html

【次回会議】

火の国会議：2021年8月10日（火）18：00～

※2021年8月から第一火曜日は課題の深堀の日。

会議の議事録はメーリングリストに配信する。KVOAD ホームページでも共有中。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご希望の方はオンライン参加が可能です。

オンラインでの参加ご希望の方は、murasima@kvoad.com（村嶋）まで

前日12時までにご連絡ください。